



●にほんご教室で勉強する外国人

おせっかいが世界を広げる

今回取材した日本人の皆さんは、外国人だからといって、特別な対応をしていたわけではありませんでした。

相手が言葉のあまり分からない外国人であっても、その人が置かれている状況を考えながら、その人自身の気持ちに寄り添い、思いやることを何よりも大切にしていました。

これは、私たち日本人同士が心掛けていることと同じではないでしょうか。道で擦れ違う時にお互いにあいさつを交わしたり、近くににいる人が困っていたら声を掛け合ったり。

そんな何気ない心遣いで、温かい気持ちになるのは、日本人も外国人も同じはず。それでも、話し掛けるきっかけが分からない時に思い出してもらいたいのが、昔からこの地域にあるご近所さん同士の温かい「おせっかい」の気持ちです。

困っている人に「どうしただ

ん？」と声を掛けたり、疲れている時に「今日も頑張ったのん！」と言ったり。言葉が分からなくても相手を思いやり、話しかけることで伝わる気持ちが、ありそうです。

外国人にとっても暮らしやすいまちは、きっと日本人であっても暮らしやすいまちであるはず。

そして、多様な文化的背景を持つ人が集い、それぞれの能力を生かして活躍できる社会は、新しい出会いや発見の可能性に溢れ、これまでにない技術やアイデアが生まれやすい社会であるとも言えます。

平成31年4月に改正入管法が施行され、全国的に外国人の数が増え、滞在年数も長期化する傾向にあります。

そんな中で、本市も多様な人が暮らししていることを、このまちの「強み」と捉え、どんな人でも暮らしやすく、そしてお互いに助け合える温かいまちを、これからも私たちみんなの手で作っていかれたらと思います。